第３学年　国語科学習指導案

単元名　学習したことを生かして

教材名　「モチモチの木」　斎藤　隆介　作　（光村図書　小学校３年下）

１　単元について

(1)　児童観

児童は，「三年とうげ」（３年上）で民話の学習を行っている。そこでは，民話の豊かな表現から想像をふくらませて読んだり，話の展開のおもしろさを感じ取ったりすることができた。おまけのなぞかけもあり，児童の読みにも違いがみられ，考えを交流することでさらに民話を楽しく読み進めることができた。また，「三年とうげ」では，繰り返しの表現が多く，リズムを工夫して音読する楽しさも味わうことができた。しかし，文章を大まかにとらえただけの一人よがりの読みにとどまっている児童もいる。

(2)　教材観

「モチモチの木」の作者である斎藤隆介の創作童話の特色として第一にあげられるのは，その作品の根底に一貫して流れている，人間としてのやさしさ，献身の美しさである。

教材文「モチモチの木」は，臆病な豆太がじさまのために医者さまを厳しい寒さの晩に，必死に勇気をふりしぼってよびにいき，一人の勇気のある子どもしか見ることができない灯がともったモチモチの木を見ることができたという物語である。豆太の臆病なところや昼間のモチモチの木に強気な態度をとるところは，似たような体験をした児童も多いと思われ，豆太に親しみをもって物語を読み進めていくことができると考える。また，じさまもおとうも見たということから，豆太が灯のともったモチモチの木を見たいと思ったことは容易に推測でき，豆太の心情に共感した児童も見たいと強く感じるであろう。このように，この作品は児童を強く引き付けることができる作品である。そして，だれかのために勇気をもって行動する豆太の姿を通して，児童に人間の生き方を考えさせるのにもよい教材である。

この作品の大きな特徴の一つとして，語り手の存在がある。民話の語り口調で，読者に話しかけるように書かれており，つい話に引き込まれていく。登場人物の考えや思いについては，はっきりとは書かれていないが，言葉巧みに豆太やじさまの言動が豊かに表現されている。特に，豆太の言動に着目すると，豊かな読みへと児童を誘うことができる。例えば，じさまに声をかける際の「じさまぁっ」「じさまっ」という表現上の違いによっても，豆太の様子を読み取ることができる。医者さまをよびにいくところでは，「ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで――。」と短文でたたみかけ，緊迫感を読み取らせることができる。また，豆太の様子の違いが昼間と夜の対比によって，より分かりやすく表現されている。その他にも，表現上の工夫がいくつもある。モチモチの木が「上からおどかすんだ」という表現や「霜が足にかみついた」という表現で木や霜を擬人化したり，「――」（ダッシュ）を効果的に使い，読み手に様子や気持ちを想像させたり，「医者さまのこしを，足でドンドンけとばした」とあえて勢いを出すためにカタカナで表現したりしている。このように，表現の工夫を基に，豊かな読みができる価値の高い作品である。

(3)　指導観

本単元では，児童が言葉を手掛かりに確かに読むことから想像を広げ豊かに読み深められるようになることを目指していく。そのためには，登場人物の心情をおさえることに偏らず，むしろそれを取り巻いている情景に目を向け想像しながら読み深めていくことを心掛けていきたい。一つの言葉を手掛かりに，言葉と言葉を比べたり，関連付けたりしながら読みの力をつけていく。

また，幼い豆太の様子や体験を自分の体験と比べさせることでイメージ化を図り，共感させながら読み進めさせていく。それにより，場面の様子を豊かに想像させ，豆太の気持ちに共感させ，根拠を明確にして読み取らせていきたい。さらに，児童同士の意見交流を毎時間を取り入れ，読み深めるきっかけとしていきたい。

2　単元の目標

○　言葉を手掛かりに，場面の様子や豆太の変容を想像豊かに読み取ることができる。

○　叙述に基づいたり自分の経験と照らし合わせたりしながら感想を述べることができる。

3　単元の評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度	1　意欲的に意見交流をしている。 2　斎藤隆介の他の作品を進んで読もうとしている。
イ　話す・聞く能力	1　級友の意見を聞き，自分の経験と結び付けたり，自分の思いと比較したりしながら聞いている。【A話すこと・聞くこと(1)エ】
ウ　書く能力	1　叙述に基づいたり自分の経験と照らし合わせたりしながら感想を書いている。【B書くこと(1)ウ】
エ　読む能力	1　言葉を手掛かりに，場面の様子や豆太の変容を想像豊かに読み取っている。【C読むこと(1)ウ】 2　場面の様子や豆太の行動について，一人一人の感じ方に違いがあることに気付く。【C読むこと(1)オ】

4　指導と評価の計画（全16時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
一	1	○　読み聞かせを聞く。 ○　挿し絵の並び替えをしながら，おおまかなあらすじをつかむ。 ○　心に残った場面を中心に感想を書き，話し合う。	・民話風の語り口を楽しめるように読み聞かせを行う。 ・挿し絵を参考にしながら，おおまかなあらすじをつかめるようにする。	ウ－1　心に残った場面について，感想を書くことができる。 〔ワークシートの記述〕
	2	○　課題を解決するための学習について話し合い，計画表に書き込む。	・これまでの物語文の学習を想起させ，初発の感想を基に，学習の計画を立てさせる。	ア－1　学習計画を立てる話し合いに進んで参加することができる。 〔発言・観察〕
	3	○　おくびょうな豆太の様子を読み取る。	・豆太がせっちんに行けない理由を考えさせることで，おくびょうな様子をとらえさせる。	エ－1　豆太のおくびょうなところを読み取ることができる。 〔ワークシートの記述及び発言〕
	4（本時）	○　昼間と夜のモチモチの木に対する豆太の態度の違いを読み取る。	・なぜ「おくびょう豆太」なのか分かる言葉を探させる。 ・豆太の様子を昼間と夜が対比できるように板書することで，豆太の性格のイメージを広げていく。	エ－1　豆太のモチモチの木に対する態度の違いを読み取ることができる。 〔ワークシートの記述及び発言〕
	5	○　「霜月二十日のばん」のモチモチの木の様子	・霜月二十日のばんには，モチモチの木に灯がともることやそれ	エ－1　豆太の思いを読み取ることができる。

二		を読み取る。 ○　話を聞いた豆太の様子と腹痛で苦しむじさまの様子を読み取る。	を見ることができるのは，たった一人の勇気のある子どもだけであることを読み取らせる。 ・灯がともったモチモチの木を見たいけど，あきらめている豆太の様子を読み取らせる。 ・「じさまぁっ」と「じさまっ」を読み分けることで，豆太の様子を想像させる。	〔ワークシートの記述及び発言〕
	6	○　豆太が医者様をよびにいく様子や気持ちを読み取る。	・まわりの様子も読み重ねながら，必死に医者さまをよびにいく豆太の様子を想像させる。 ・走り出す豆太のペープサートを提示し，豆太を励ます言葉を考えさせる。	エ－１　豆太の必死に医者さまをよびにいく行動を読み取ることができる。 〔ワークシートの記述及び発言〕
	7	○　豆太が灯のともったモチモチの木を見ることができた理由を想像する。	・灯のついたモチモチの木の様子を豆太と医者様の見方を比べることで，更に想像豊かに読み取ることができるようにする。	エ－１　灯がともったモチモチの木を豆太が見たことを読み取ることができる。 〔ワークシートの記述及び発言〕
	8	○　じさまが，豆太のことをどう思っているのかを読み取る。	・話をふり返りながら，じさまの言葉を手掛かりに「やさしさ」や「勇気」について，じさまが豆太に伝えたかったことを考えさせる。	エ－１　豆太へのじさまの思いを読み取ることができる。 〔ワークシートの記述及び発言〕
三	9・10	○　モチモチの木を再度読んで，読書カードを書き，ミニ読書発表会をする。	・読書発表会の練習を意識させながら，みんなで学習した「モチモチの木」で意見交流をさせる。	ア－１　友達の発表に対して，意欲的に質問したり，感想を言ったりしようとしている。 〔発言・観察〕 イ－１　友達の発表を聞き，自分の思いと比べながら聞くことができる。 〔発言・観察〕
四	11～16	○　斎藤隆介の他の作品を読んで，読書カードを書く。 「ソメコとオニ」 「かみなりむすめ」 「半月村」 「ひさの星」 「八郎」 「花さき山」 ○　読書発表会をする。	・斎藤隆介の他の作品を読めるよう，教室にコーナーを設けたり，ブックリストを用意したりする。 ・発表の形態を工夫することで，みんなが発表し，意見が言えるように配慮する。	ア－２　斎藤隆介の作品を進んで読もうとしている。 〔発言・観察〕 ア－１　友達の発表に対して，意欲的に質問したり，感想を言ったりしようとしている。 〔発言・観察〕 イ－１　友達の発表を聞いて，自分の経験と結び付けながら聞くことができる。 〔発言・観察〕

5　本時の指導（４／１６）

(1)　目標

豆太が昼間と夜とではモチモチの木に対する態度が違うことを，豆太の言動やまわりの様子をあらわす言葉に着目しながら，想像豊かに読み取ることができる。

(2)　展開

学　習　活　動	指導上の留意点
1　学習のめあてを知る。 昼間と夜の豆太の様子を読み取ろう	○　豆太の昼間と夜の様子を表した挿し絵を提示し，その違いからめあてをもてるようにする。
2　「やい，木ぃ」の場面（64ページ７行目～66ページ８行目）を音読する。	○　豆太がどんな子どもかを読み取りながら音読するようにさせる。
3　豆太がどんな子どもか読み取る。 (1)　豆太の人物像が分かるところをワークシートにまとめる。 （一人調べ） (2)　豆太の人物像について，交流する。 （考えの交流） ①　グループでの交流 ②　全体での交流	○　豆太の様子や気持ちが分かる言葉を抜き出させ昼間の豆太の様子や気持ちには「○」，夜の豆太の様子や気持ちには「●」を付け，分類させる。 ○　豆太の人物像について，文章にある言葉だけではなく，児童の表現する言葉も認めながら，その根拠となる言葉を押さえていく。
〔豆太の昼の様子〕 ・「やい，木ぃ，モチモチの木ぃ，実ぃ落とせぇ。」とモチモチの木に，かた足で足ぶみして，いばってさいそくする ・モチモチの木は，こわくない 〔豆太の夜の様子〕 ・豆太ほどおくびょうなやつはない ・五つなのに，一人でせっちんに行けない ・モチモチの木がこわい 〔モチモチの木の様子〕 ・空いっぱいのかみの毛をバサバサとふるって，両手を「わあっ。」とあげる ・秋になると，茶色いぴかぴか光った実を，いっぱいふり落としてくれる	○　豆太の言動だけではなく，モチモチの木の様子も関連付けて，豆太の人物像をとらえることができるようにする。 ○　「おくびょう豆太」の場面にある「じさまぁ。」の表現を想起させ，「じさま」という呼び方とを読み比べさせ，表記上の違いからも読み深められることをつかめるようにする。また，表現のおもしろさを感じ取れるようにする。 評価 言葉に着目して，昼間と夜との豆太の態度の違いを読み取ることができる。 〔ノートの記述及び発言〕
4　豆太の人物像について感想を発表する。	○　豆太は５歳であることを再確認し，自分が５歳だったときはどうだったかを振り返らせることで豆太に共感できるようにする。